

枠を超えて多様な出合いを

加藤博史

ユニバースとダイバースという二つの良く似た言葉があります。ユニはひとつ、バースは変えるというラテン語が語源です。漢字で「普遍」が当てられます。簡単に言うと、〈すべてのものに共通にゆきわたっている〉という意味です。世界人権宣言は、英語でヒューマンライツのユニバーサル宣言です。自由で平等な人である権利は、みんな共通にゆきわたるべきものですね。

次に、ダイは、二つの、という意味があり、ダイバースは「多様」の意味で使われます。対話はダイアログです。人も生命も個々に違い、だから相互に補い合っています。ダイバーシティで重要なのは、内にも外にも一つの色に染めないこと、および個々の違いを活かし合って対話していくことです。

普遍と多様の大敵は、権力関係です。男性中心の権力にしがみついている人は、LGBTQなどの多様な性的指向・性自認を持つ人に、普遍的な尊厳を認める

ことが怖いのです。白人至上主義者は、劣等民族を作るのに熱心です。かつてユダヤ人の中にも出身地で優劣がありました。今日、情報処理能力で人間に優劣をつける能力差別が強まっているように思えます。社会に居場所を無くした人が、より弱い立場の人を排除攻撃する事件は後を絶ちません。

私たちはモアネットの活動を通して、全ての人が大切なかけがえのない人として認められることの重要性を、尊厳を踏みにじられながらも温かく大らかに生きる人たちから教えられてきました。この基盤を確かめ、より多様な外国文化を持つ人の支援へと展開しつつ、モアネットは、さらに多様な地域活動、ボランティア活動をしている人、生活困難にある人たちとのコラボに取り組みます。私たちの内にある普遍性と多様性に気づき発揮して、これらのつながりとキャッチポールし、互いの普遍性と多様性を元気にしたいと願っています。

京都モアネット 2021年度 事業報告

1. 多文化福祉委員派遣事業

2021年度は20人の福祉委員が63人に対して1203件の生活支援活動を行いました。コリアン以外に、アメリカ人1人、ネパール人1人について支援しました。具体的には、孤立しがちな方に対して、介護保険事業所やその他の関係機関と連携しながら傾聴、見守り活動。そのほか、高齢や体調の変化で日本語での会話が困難になった高齢者に、簡単な日本語や母語で対応し、心のケア、医療・福祉・住宅関係者との間の通訳、行政手続きの同行や代行、帰国手続きの支援などを行いました。また、関係機関から、外国ルーツの人の支援についての相談があり、協力しました。

2. 多文化福祉委員の研修・充実化に向けて

現在活動している多文化福祉委員が毎月「お茶会」で顔を合わせ、活動報告や情報共有を行い、質の向上を目指しました。

3. 外国籍住民理解に向けての啓発活動

Facebookを更新し、多文化ルーツの人たちのかかえている課題への理解を促しました。

4. 他の外国人支援団体との連携

京都市国際交流協会の「きょうと多文化支援ネット」に事務局メンバーが参加し、在京外国人グループの動画紹介づくりに協力しました。また、豊中国際交流協会と交流・情報交換を行いました。

第17回総会報告



総会のようす

2022年9月10日、京都市地域・多文化交流ネットワークサロンで開催し、運営委員と多文化福祉委員14名が集まりました。

最初に事務局から今年度の事業・会計報告と次年度の事業・予算案が出され、承認されました。

事務局からは、最近の活動として、①1980年代以降渡日したコリアンニューカマーが、同胞のコミュニティがなく一人で困っていたり、加齢と共に日本語を忘れてしまうという問題があること、②モアネットで支援していたコリアンニューカマーが急に転居したり帰国することになり、転居先の支援へのつながりや、帰国の段取りの支援が大変だったこと、③英語圏の高齢者のケースでは、当事者が今まで殆ど日本語を使わず暮らしてきたため、介護者との意思疎通に困り不満が募っており、多文化福祉委員が母語を使って当事者がリラックスできる時間を提供していることを挙げました。また、2022年6月に、NTTデータ経営研究所から、厚生労働省の「外国人高齢者に対する効果的ケアのために外国人介護人材が果たす役割に関する調査研究事業」についてのヒアリングがありま

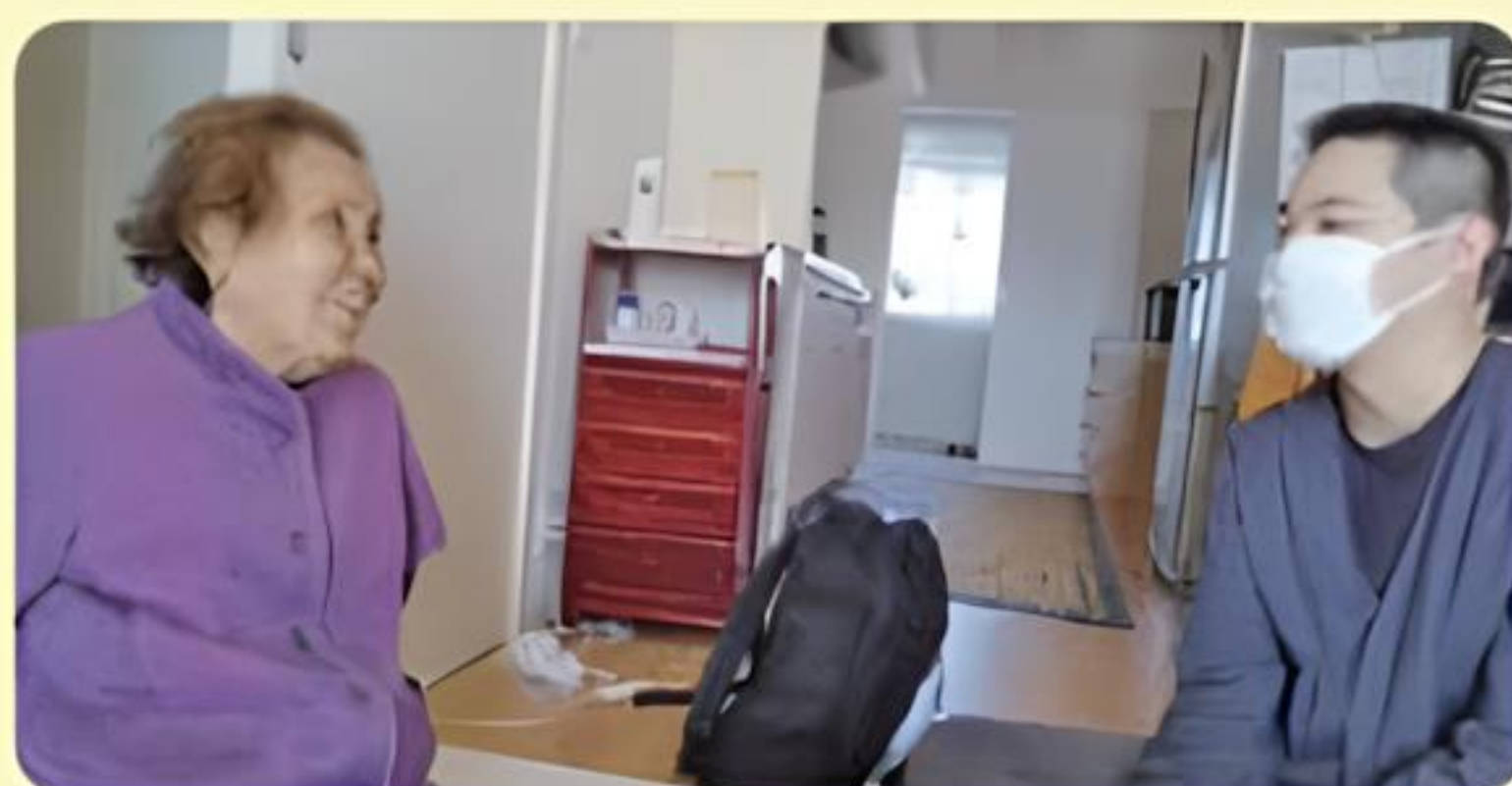
した。モアネットの支援状況や意義、課題について伝え、外国人介護者が支援する仕組みを作ることの重要性を研究所メンバーに訴えました。

次に、多文化福祉委員より、活動報告をいただきました。12年間活動を継続し、今は86才のハルモニから多くのことを学んでいる。特に独居男性は孤独になりやすいのでモアネットの支援が重要になる。コロナ禍に配慮して玄関先で帰ったら1週間後に亡くなった方がいて悔やまれた。9年間訪問したハラボジがグループホーム入居後、コロナ禍で面会に行けなくなった。長年訪問していた方が今年初めに逝去されコロナ禍でお葬式に行けず残念だった。娘世代の私に、家族には言えないことポロっと話してくれる。自宅に引きこもっていて福祉サービスに繋がりにくい人や、個人情報保護法の関係で公的支援が入れない場合でも、モアネットなら同胞支援もあり、信頼関係をもちつつ自由に関わることができる、など、それぞれの想いも交えて語っていただきました。

また、2022年度の取り組みとして、モアネットの活動内容や意義を若者に伝え、楽しく活動に参加してもらえるよう短いPR動画作成を計画中で、立命館大学と龍谷大学の学生がモアネットの活動を体験し、動画撮影に協力してくれていることも報告されました。

最後に、役員の交代と新役員の紹介がありました。顧問の金尚一さんが菱世哲さんに、共同代表兼運営委員の柴松枝さんが金賢一さんに交代。新しい運営委員として、阪口春彦さん（龍谷大学）、運力裕（チ・リヨウ）さん（龍谷大学）、マーサ・メンセンディークさん（同志社大学）が加わってくれることになりました。（事務局・井上）

PR 動画撮影の様子



①大人になって渡日したコリアンに学生の福祉委員が傾聴。簡単な日本語で会話ができます。通院同行をすることもありません。



②1934年生まれ、3歳で渡日して激動の時代を生きたコリアンオモニから歴史や思いを聞いています。そのほか、外出支援をしています。

多文化福祉 委員（一部）の 活動紹介

現在も続いている活動、最近支援が終了したものの中から、いくつかをお伝えしたいと思います。支援のきっかけ、かわりの中で起こった変化、既存の福祉サービスではできない支援など、モアネットの活動ならではのエピソードです。

★文化的背景がちがっても、自分らしく生きることのできる生活を応援します～

●多文化福祉委員～一緒に活動してみませんか？

外国にルーツのある高齢者や障がいのある方を対象に、関係機関や家族、ご本人からの依頼に応じて、ご自宅を訪問、あるいは電話や来所にて相談をお聞きし、活動を行います。

文化的背景がちがうため、日本の制度が分からなかったり、難しい日本語が理解できないため、生活に困ることがあります。

外国語ができなくてもOK。日本に長年滞在されていて、日本語がわかる方も多くおられます。

★交通費程度の活動費が支給できます。

★簡単な講座を受けていただき、登録の上、必要時に活動いただきます。

●活動内容

①電話相談：電話でご相談をお聞きします

②傾聴活動：来所や自宅にてゆっくりお話を聞きます

③その他の支援：既存のサービスや制度ではまかなえない部分の支援～病院や役所などの手続きを一纏におこないます

④通訳：医療機関や役所等で、ご本人の意思や思いを通訳し、安心して利用できるようお手伝いします

7年間関わったSオモニ、転居により活動が終了

南 均 賢

2015年2月、高齢者地域包括支援センターからの相談で活動が始まったSさん。尋ねてみると、見覚えのある家、人… 2009年ごろ、夫さんが亡くなる前、キーパーソンである妻（Sさん）とのコミュニケーションに困っていた包括支援センターの依頼で訪問した方だったのです。6年ほど関をおいたものの再会に喜び、距離感もすぐに縮まりました。

Sさんは、日本語を聞き取れるけど話せず、言葉が通じる医者がある大阪・生野区の病院と、大阪のニューカマーたちが集う教会に通い、生活のペースがすべて大阪で、住んでいる京都には友だちも近所づきあいもありませんでした。

私のメインの活動は受診時の通訳、ケースワーカー訪問時の通訳でした。その時、Sオモニは78歳だったので、今後、大阪に通えなくなることを想定し、京都市内で言葉が通じる病院や教会とつなげていきました。結局教会はなじみず、月に1回大阪に通い続けました。コロナ禍で教会での礼拝ができなくなってからは家に閉じこもりがちになったため定期的に訪問し、亡くなった夫家族との関に入り、介護保険申請、住んでいたマンション管理組合とのやり取り、大型ごみ処分のお手伝いなどをしてきました。多様な生活

支援を行う過程でSさんは私を本当の娘のように思ってくれました。

20年以上韓国料理店で腕前をふるって来た方だけあって、スーパーで惣菜を買うことはなく、キムチもおかずも何もかも、自分の口に入れるものは手作り。訪問すると体にいいから飲み！と玉ねぎ茶を出してくれたり、通院同行時は待合のフロアでキンパ（韓国海苔巻き）を勧められたり、私にとって「実家のオモニ」のような存在でした。京都市内で充実した生活ができるようサポートしてきましたが、Sさんは、年を追うごとに「一人で死ぬ事」への不安が募り、悩みに悩んだ末、すぐに駆け付けてくれる友だちがいる大阪への転居を決断。2022年夏、京都を立ちました。

愛嬌があって、誰でもすぐに受け入れ（そのためトラブルに巻き込まれることもありましたが）自分ができることで人助けをしようとするボランティア精神に富んだSさん、大阪で自分らしく生き生きと年を重ねてくれることを京都から願っています。



Hさんを長年訪問して

多文化福祉委員 佐川 嘉奈子

11年前、在日コリアン二世のTさんを訪問し始めた時は、ご主人も健在でした。社交的なご主人とは違い、Tさんは耳が遠いこともあってデイサービスに行くのも乗り気ではない様子。それでも私が行くと美味しいチヂミを焼いてくれました。

ご主人が第一日赤のICUに入られた時は一緒にお見舞いに行きました。この時普通は家族しか入れないICUに私も入れてもらえてそういう関係だと思ってくれているんだと感じました。

ご主人亡き後、長男一家と同居されても訪問を続けました。私は日本人だから、どう思われるかな…と不安でしたが、お嫁さんが「おかあさん、来てくれはったよ」と言ってくれるので行きやすかったです。Tさんは料理好きでしたが、高齢でもあり家族から危ないと心配されて、台所に立つことができなかつたようです。そのうち足腰の痛みも増しだんだん会話も減って、私が訪問してもTさんと上手にコミュニケー



ションできているのか疑問に思うことがありました。そんな時、モアネット事務局の人から「行くだけで意味があるよ」と言われ、それを励みに

訪問を続けました。自分が行くことがTさんにとっていつもと違う時間になり、Tさんが少しでも嬉しいと感じるなら自分も嬉しいんだと思いました。

Tさんが亡くなった時はコロナ禍で最後のお別れもできず、とっても残念でした。しばらくしてお線香を上げに行くと、お嫁さんが私たちの訪問に合わせて納骨の予定を延ばしてくださっていました。お嫁さんはTさんが着ておられたブラウスを着て、Tさんのベッドで寝ていると話されていました。家族から愛されていたTさんを長年訪問できたことが、今も私の心を温めています。



Kさんと図書館に通う

井上 朋子

40代の在日コリアン三世Kさんを訪問するきっかけは、2年前にKさんが足首を骨折されたことでした。骨折が治るまでの間、外出は車いすを使うことになったKさん。月に2、3回南図書館や京都駅付近に買い物に行かれる時、私が車いすを押して同行することになりました。軽い知的障害があるKさんは、図書館の窓口や店のレジで、自分で全てやり取りをされますが、そばに誰かがいることで安心して行動できるようでした。

2か月ほどして骨折が治ってしばらく期間が空いたのですが、訪問を再開し今度は一緒に歩いて図書館に通うようになりました。

Kさんは口数が少ないので、私は行き帰りの道でいろんなことを彼に話しかけ、聴くようにしました。一緒に暮らしている母がKさんに干渉し過ぎると、Kさんはイライラして、つい大声を出してしまうらしいのです。週に3日、リサイクルの仕事に通い、休みの日は一人でぶらりと出かけて、好きなラーメンを食べたり、ペットのハムスターの餌を買いに行ったりして、リフレッシュされています。

私の話しかけに「そうです」と反芻されるのが殆どだったのですが、ある時私が「以前ウサギを飼っていた」と言うと、すぐに「へえ、何ていう名前だった?」と質問が返ってきて、その後も動物の話をするとうれしくなり「かわいいですね」とか「よかったねえ」とか自分の言葉で話されます。Kさん、本当に動物好きなんだなあ…鴨川のユリカモメのこと、通りすがりの散歩の犬のことなど…楽しい話題がみつかってよかったなと思っていたら、先日「休みの日は何をしていますか?」と聞かれ思わず嬉しくなりました。少しずつ心を開いてくれるKさんと話すと、私も心が開くから嬉しくなったのかもしれない。

その後、Kさんのお母さんが骨折して入院され、2ヶ月ほどKさんが一人暮らしになってしまいました。これを契機に、Kさんが将来、親亡き後一人になった時も、今の家で自分らしく暮らせるようにと、障害福祉サービスに繋げることができました。モアで支援したことで、Kさんも障害福祉のヘルパーやいろんな人に、自分の気持ちを伝えやすくなったのではないかと思います。

Tさん ～民族団体で出会いモアの支援活動へ

諸葛 檀

Tさんは2度にわたって脳梗塞を発症し、現在介護施設「故郷の家・京都」に入所されています。コロナ禍で脳梗塞を再発後、半年の病院生活を終えこの施設に入所、早や2年目を迎えます。



私がTさん知ったのは今から10年前この地域の民族団体の役員として当時、Tさんと共に活動をするようになってからです。当時は、元気なTさんが4年後に脳梗塞になるとは思いもしませんでした。非常にショックでした。入院当初、歩行困難があり、リハビリ治療に専念し体調も快復され1年後に退院をされました。そして退院後、モア福祉委員として訪問するようになりました。

要介護3の認定を受けデイサービスにも通うようになりました。訪問では、体調のことや、民族団体、同胞社会のこと等、関心がある話題で話が弾みました。

反面、独居生活での偏った食事と運動不足で少しずつ歩行困難になっていきました。そのような状況で脳梗塞を再発し、お部屋で倒れていたのをヘルパーさんに発見され、緊急入院できました。本当に事なきをえました。

今度は言語障害が残り会話が思うように出来なくなりました。退院後、独居生活は無理で病院やケアマネージャーの紹介で故郷の家に入所できました。これもひとえに関係者の皆様方のご配慮だと思います。

最近では故郷のスタッフが動画をラインで送ってくれます。昨年12月のTさんの70歳誕生パーティーと、大豊の1月24日、屋上でのTさんの嬉しそうな表情を忘れません。

今もこの地域の民族団体が同胞の障害者や高齢者の支援活動に参加できているのは、私にとっても心強い限りです。

今後ともモアネット福祉委員としての使命を全うしていく所存です。

アメリカ人高齢者との出会い

ベッド上の生活のDさん。言葉がうまく出せず、物忘れもありますが、こちらの言っていることは理解され



ています。週1回1時間、福祉委員が交代で訪問し、英語でやりとりしながらお互いが1時間を楽しんでいます。エピソードを紹介します●田舎の大家族で育った。ヒマラヤ山脈が大好きだからネパールが大好きとか、お互いのことを知れました●Dさんの机に僕が初めて見る写真があって、それについて思い出話をいっぱいしました。Dさんは2ヶ月ぶりに僕に会えてとても嬉しそうにしていたのが僕もうれしかったです●大好きな一口アイスを何度も欲しいというので、(それより私のことを) Beautifulとか言ってよ、とふざけてみました。簡単な言葉や表情でのやりとりが楽しいです。その後、Nina Simoneの曲をかけたならノリノリで手をあげていました●Dさんがしんどそうにし

ていたんで、背中をさすったらすぐに落ちついてくれました。外で雪だるまを作ったのを融ってもらったら、

若干笑顔になったような？ わたしがやっと大学卒業することや仕事の話をしたら、niceと言ってくれました●帰り際にsee you againと声を掛けると、Dさんもsee you againと返してくれました。あんなにはっきり話してくれたのは初めてでとても嬉しかったです●中国映画の話をしました。Dさんもジャッキー・チェンが好きです。中国の有名な観光地の写真を見ました。Dさんは僕の故郷へ行ったことがあって、有名な橋の写真を見せたら、Dさんはその橋を何年かぶりに見て楽しいそうでした●チャンイーモウの映画の話や、東京オリンピック汚染の事、中村哲医師の映画の話など、色々な話題が出ましたが、平和な世界について三人の感想が一致しました。

2021年度支援内容

福祉サービス 紹介・紹介	介護 保険	受付相談	0
		サービス利用・内容	0
		その他	0
	生活介護	0	
	高齢者福祉	1	
福祉サービス 紹介・紹介	障害者福祉	1	
	その他の保健福祉サービス	0	
	小計	2	
	相談支援	安否確認	1058
		生活関係	1008
家族関係		323	
人間関係		78	
生きがい相談（趣味活動）		138	
精神面		219	
経済面		35	
言語・コミュニケーション関係		39	
民族文化・歴史等		77	
健康（病気・体調）		878	
栄養食事関連		167	
その他		9	
小計		4029	
関係機関との連携調査		福祉事務所	15
			役所 その他（保健センター・健康保険関係等）
	自治会、地域団体など	0	
	民生委員・老人福祉員	8	
	社会福祉協議会	0	
	介護保険関係	159	
	障害福祉関係	39	
	その他（ライフライン・医療関係・家族・近隣住民等）	170	
	小計	400	
直接対応	緊急 対応	1	
	病院・診療所への連絡	0	
	警察・消防署出動要請	0	
	病院受診同行・入退院手配など	46	
	通訳（医療・行政・ライフライン等）	58	
	家事援助	31	
	身体介護	55	
	生活支援（代読、代筆、外出同行、副食の説明など）	112	
小計	303		
合計		4734	
2021年度	対象者	63	
	活動した福祉委員	20	
	活動件数	1203	
	のべ支援内容	4734	

京都外国人高齢者・障害者 生活支援ネットワーク・モア収支報告書

（2021年4月～2022年3月）（単位：円）

科目	金額	
1. 収入		
京都市助成金	1,120,000	
賛助寄付金	492,000	
会費	8,000	
預金利息	23	
雑収入	0	
当期収入合計 (A)		1,620,023
2. 支出		
1) 福祉委員派遣事業に係る費用		
・報酬費	619,500	
・上記に関する交通費	103,120	
・連絡調整費	237,000	
・通信費	45,286	
・事務費	10,388	
・買付料	600,000	
・雑費	0	
2) 福祉委員養成		
・活動費	178,522	
・交通費	0	
・雑費	0	
3) ネットワーク強化		
・活動費	150,738	
・事務費	7,928	
・交通費	0	
・雑費	0	
4) 啓発事業		
・活動費	111,330	
・事務費	110	
・雑費	0	
当期支出合計 (B)		2,063,922
当期収支差額 (A) - (B)		▲ 443,899
前期繰越額		956,660
次期繰越額		512,761

編集後記

日本語での会話に問題がなくても、家族が外国ルーツであることが精神的・経済的な課題を抱えている人には、支援しながら思いを聞く。また、日本語が十分に話せない人に、理解できる日本語を使って相談に乗る。モアネットは支援内容に縛りがないため、本人にゆっくり寄りそい、時間をかけて信頼関係を築きつつ、関係機関につないだり、一緒に動くことができるのです。しんどさを抱えている人が多文化福祉委員の訪問で笑顔になったり、「待ってたよ」と言ってくれたり、そういった一言や表情は、福祉委員にとってうれしい瞬間です。現在PR動画を作成中。できるだけ多くの人に、外国ルーツの人たちの抱えている課題や、出会ってしゃべって知ることの楽しさを伝えたいと思っています。（み）

京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク「モア」（京都モアネット）

〒601-8022 京都市南区東九条北松ノ木町 12 京都コリアン生活センターエルファ内

TEL 075-681-2721 / FAX 075-693-2555 E-mail kyotomorennet@yahoo.co.jp

郵便振替口座：00990-4-314429

加入者名：京都外国人高齢者障害者生活支援ネットワークモア

♥支援カンパよろしくお願ひします♥